

授業改善推進プラン【道徳】

谷戸第二小学校

1 日常の学習における課題分析

- ・ 話合いの場面では、自分の意見をなかなか発表できないことがあり、発表者が限られてしまうことがある。
- ・ 資料を通して考えたことが、振り返りに生かされていないことがある。
- ・ 効果的なワークシートの作成ができていない。
- ・ 自立心や自主性、生命を尊重する心の育成をさらに重視していく。(新指導要領から)



2 授業改善の方策

- 道徳の時間を道徳教育の要とし、学校の教育活動全体で取り組む。
- どの児童も考え、発言ができるように
 - ・ **児童理解に努める**…道徳的価値に対する児童の意識調査、日頃の様子を観察、作文等から児童一人一人の道徳性の実態を把握しておく。その際、児童のよさ、努力、変容などに着目するようにする。
 - ・ **資料提示の工夫**…児童が資料を十分理解し、登場人物に共感できるようにするなど、資料提示の方法を工夫する。(紙芝居、語り聞かせ、パネルシアターなど)
 - ・ 導入、展開の前段・後段、終末での学習がそれぞれ、**ねらいに即したものになっているかを吟味する。**
- 道徳の授業の意義の再確認
 - ・ 体験活動に終始したり、資料の読み取りで終わったりせず、**ねらいに迫ることができているかを確認する。**
 - ・ 展開後段を大切にし、ねらいとする道徳的価値に照らして必ず**自己の見方、考え方やその変容を振り返らせる。**
- 授業の流れ
 - 導入 児童の実態や資料の特徴により、導入の方法を工夫する。
 - ◆ねらいとする道徳的価値へ、児童の意識を方向付ける。
 - ◆資料について興味・関心をもたせたり、場面や登場人物について解説をしたりする。
 - ◆学習の雰囲気づくりをする。
 - ・ 絵、写真、アンケート、新聞記事、作文、日記、録音テープ、VTRなどを活用する。
 - 展開前段 ◆資料を使って、ねらいとする道徳的価値について考えさせ、把握させる。
 - ・ 資料提示の工夫(紙芝居、語り聞かせ、パネルシアターなど)
 - ・ 指導方法の工夫(発問、体験を想起させる、役割演技、動作化、ワークシート、板書等)
 - 展開後段 ◆ねらいとする道徳的価値について自分とのかかわりでとらえさせる。(価値の一般化)
 - ・ 話合い、ワークシート、心のノート等で自分を見つめ直す。
 - 終末 ◆ねらいとする道徳的価値の整理、深化、広がり、定着を図る。
 - ・ 教師の説話、児童の作文、保護者からの手紙、歌、ゲストティーチャーの話等